

カウンセリング研究室

カウンセリング発祥の地

現在の茨城キリスト学園の前身であるシオンカレッジは1949年に設立され、初代学長に就任したのがローガン・J・ファックスです。ローガンはシカゴ大学でカウンセリングを修め、1955年以降14回にわたり本学において夏季カウンセリング講習会を開催し、その後のわが国のカウンセリングに多大な影響を与えました。カウンセリングの源流の一つを創った恩師カール・ロジャーズ博士から学んだ当時最先端のカウンセリングを日本に紹介した功労者でもあったのです。学園のカウンセリング研究室は、日本のカウンセリング研究発祥の地であると同時に、カウンセリングの拠点として知られています。



(左) ローガン・J・ファックス
(右) カール・ロジャーズ



夏季カウンセリング講習会
※写真中央がカール・ロジャーズ

茨城県立高萩高等学校におけるキャンパスエイド活動

カウンセリング子育て支援センターの管轄のもと、大学生を茨城県立高萩高等学校にキャンパスエイド(Campus Aid: 以下、CA)として派遣する活動を継続しています。2023年度も年間を通して本学生活科学部心理福祉学科の学生(3年生・4年生)がCAとして高萩高等学校を訪問し、生徒の高校生活の支援に取り組んでいます。学生たちは、生徒との対話や遊び、見守りなどのかかわりを通して、彼らへの心理的支援を実践しています。こうした支援は、生徒たちにとってはもちろんのこと学生にとっても貴重な体験の学びの機会となっており、高大間での支援活動を介した相互の支え合い、学び合い活動として結実しています。

日々のCA活動は、学生の自主的、自律的な取り組みによって運営されています。そうした学生の活動に対して、センター所属の実践研究員である教員がサポートにあたっています。また、活動に関わる教員や学生は、キャンパスエイド活動に関する研究にも精力的に取り組んでいます。

活動にあたっては、高萩高等学校の先生方のご理解とご協力を得ています。高校の先生方との意見交換や

情報共有は、活動の質向上のためにも、学生の学びにおいても貴重な機会となっています。

2023年度でキャンパスエイド活動は6年目を迎えました。次年度以降も、今までの臨床的実践と研究の蓄積を活かしながらチーム学校の一員として高萩高等学校の生徒さんたちを支援していきます。



カウンセリング研究室

茨城キリスト教大学カウンセリング研究室は、わが国のカウンセリング研究発祥の地であると同時に、地域社会におけるカウンセリングの拠点としても知られています。小さなお子様からご年配の方まで幅広い年代の皆さまにご利用いただけるこころの相談室です。

悩みや不安は、その人がよりその人らしく生きることができるようになるための“こころからのメッセージ”であることも多く、一人で抱えているとなかなかその意味がつかめないこともあります。そんなとき、その困り感や症状とともに一度立ち止まって、当研究室でゆっくりとお話ししてみませんか。

開室時間

月～金 9時～16時半

※土・日曜日、年末年始、大学休講日はお休みです。
また、大学の長期休暇期間は特別日程となります。
ご希望の方は、直接、カウンセリング研究室にお問い合わせください。

申込方法

予約制です。電話でお申し込みください。

TEL.0294-52-3215(内線 3280)

料金

初回面接 4,000円

個別面接 2,000円～5,000円

家族面接 5,000円

心理検査 1,000円～5,000円

*健康保険の適用はありません。
*本学園の学生・生徒は無料です。
*公認心理師養成課程の大学院生が陪席あるいは担当することもあります。
*医療機関を受診されている方は、主治医とご相談の上、お申し込みください。

アクセス



茨城キリスト教大学 カウンセリング子育て支援センター ニュースレターNo.2

2024年3月30日発行

発行元 茨城キリスト教大学 カウンセリング子育て支援センター
〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1 TEL.0294-52-3215(代)

相談までの流れ

お電話でのお申し込み
TEL.0294-52-3215 (代表)

まず、お電話で簡単にお話をうかがいます。
確認事項がありますので、
10～20分ほどお時間をいただきます。

初回面接の日時調整

担当のカウンセラーによる初回面接を行います。
大学院生が同席させていただく場合があります。

当室にてお受けする場合
担当者決定

当室にてお受けできない場合
他機関への紹介

カウンセリング子育て支援センター 案内図

2023年度

茨城キリスト教大学 カウンセリング子育て支援センター ニュースレター No.2

子育て支援講座

子育て支援室「アンネローゼ」主催講座

- ① 完璧な親なんていない (NP) プログラム
- ② スター・ペアレンティング・プログラム
- ③ 前向き子育てプログラム トリプルP
- ④ ワーキングマザー & ファザー準備講座
- ⑤ プレイグループ「クローバー」

地域・国際交流センターとの共催講座

- ⑥ 夏休み子どもアンネローゼ
- ⑦ アンネローゼひろば

日立市と協働した市内保育園等の巡回支援

カウンセリング研究室

カウンセリング発祥の地

茨城県立高萩高等学校における キャンパスエイド活動



子育て支援講座

子育て支援室「アンネローゼ」主催講座

①完璧な親なんていない(NP)プログラム

日時：2023年5月12日(金)～6月16日(金)
午前10時～12時 全6回
担当：萱場 晶子(NPNC認定ファシリテーター・児童指導員)
ファシリテーターのもとでお子さんと離れて、子育てについてゆっくり語り合います。

参加者の声

- 家(母)によって考え方、やり方、スタイルが様々で正解はないこと、悩んでいる今も無駄ではないと思えたことが大きかったです。
- 悩んでいるのは自分だけじゃないと知る機会になり安心しました。みんなの悩みを聞いたり解決法を聞いて視野が広がりが心の余裕につながりました。



②スター・ペアレンティング・プログラム

日時：2023年6月19日(月)～7月24日(月)
午前10時～12時 全4回
担当：中島 美那子(児童教育学科教員)
親としてぶつかる問題のさまざまな解決方法について考えます。

参加者の声

- 一人ひとりの意見を尊重して下さっていてリラックスしてプログラムに参加できました。
- 2～4人グループの少人数で話しやすかった。
- 他の参加者の方のアイデアを知れて生活に取り入れられた。受講者がわかるころまで噛み砕いてくれた。例や説明がわかりやすかった。



③前向き子育てプログラム トリプルP

日時：2023年10月16日(月)～12月4日(月)
午前10時～12時 全8回
担当：菅野 ひろみ(本学兼任講師)
お子さんへのかかわり方について理論と技術の両面から楽しく学びます。

参加者の声

- 子育てについて悩みを持っているお母さんたちと意見を出しながら講義を聞けてとても楽しかったです。
- 他のママさんの考え、子育て論、家族関係からたくさんの刺激をもらえました。



④ワーキングマザー＆ファザー準備講座

日時・担当：2023年12月12日(火)
萱場 晶子(NPNC認定ファシリテーター・児童指導員)
12月19日(火)、2024年1月9日(火)
村田 孝二(NPO法人学修デザイナー協会前理事長)
1月16日(火)
高村 浩子(ファイナンシャルプランナー)
午前10時～12時 全4回

講師や参加者と共に、将来や家計について考えます。

参加者の声

- どの講師の先生もやさしくて聞きやすく分かりやすい内容でありがたかったです。
- 自分を振り返り、みつめなおすことができた。自分でもほっとでき、前にふみだす機会になった。



⑤プレイグループ「クローバー」

日時：2023年10月13日(金)～2024年2月16日(金) 午前10時～12時 全14回／発達検査2回
担当：中島 美那子(児童教育学科教員)、菅野 ひろみ(本学兼任講師)
お子さんの発達が気になっている保護者の方向けの親子教室です。



参加者の声

- 学んだことやみなさんそれぞれの工夫を試してみて、ちょっとした関わりの違いで子どもの行動が変わることを実感しました。
- 自分と同じような悩みを抱えている人がいることが分かって安心しました。
- 子どもが喜んで参加していることがうれしかったです。

地域・国際交流センターとの共催講座

⑥夏休み子どもアンネローゼ

日時・担当：2023年8月7日(月)
穂積 訓(児童教育学科教員)
「実験しよう」
8月8日(火)
小西 優子(食物健康科学科教員)
「おやつをつくろう」
8月9日(水)
鳥居 洋介(中学校高等学校教員)
「プログラミングであそぼう」
8月10日(木)
中山 健一(文化交流学科教員)
「留学生とあそぼう」
午前9時30分～午後12時45分 全4回

日替わりのテーマを通して、大学教員、学生と一緒に時間を過ごす、小学生向けの講座です。

参加した小学生の保護者の声

- 充実した楽しい講座をありがとうございました。
- 温かく対応していただいたと聞きました。
- 来年も参加したいと言っておりました。



⑦アンネローゼひろば

日時・担当：2023年5月25日(木)
原口 なおみ(児童教育学科教員)
「子どもと楽しむ絵本の世界」
6月8日(木)
中島 美那子(児童教育学科教員)
「乳幼児からはじめる性の教育」
6月22日(木)
飛田 隆(児童教育学科教員)
「簡単な手づくりおもちゃ体験」
7月6日(木)
清水 悦子(児童教育学科教員)
「子どもの眠りのお話」
午前10時～12時 全4回

それぞれの大学教員の専門をもとに、テーマに沿っておしゃべりします。

参加者の声

- 親をつかんだ手から伝わる響き、空気の震えも大事な要素なんだと知り、絵本の見せ方について改めて距離を詰めて読んでみようと思いました。
- 子育ての中でジェンダーについて考えることがあったので、今回色々な人と話ができてよかったです。
- 子どもと一緒に作れるような簡単なおもちゃが多く良かった。



日立市と協働した市内保育園等の巡回支援

カウンセリング子育て支援センター子育て支援室では
日立市の業務委託を受け、
保育園等の巡回を行う巡回支援専門員整備事業を実施しています。

誰もが差別されることなく過ごすことができる共生社会の実現を目指してインクルーシブな保育・教育が実践されている中、発達障害やその傾向のあるいわゆる気になる子は通常の保育園等に多数在籍しています。そうした気になる子が在籍園において楽しく伸び伸びとした生活を過ごせるように、保育園等を巡回し、気になる子への関わり方や周囲の子どもとの関係づくり、小学校等への就学に向けた支援について、主として担任の先生にアドバイスをを行っています。

巡回支援の最大の特徴は実際に気になる子を観察し、その様子からその子の特徴を見出すことです。これはその子の困っている行動だけではありません。例えば、中々じっとしていられない子でも絵本の読み聞かせは興味津々で話を聞いている、具体的な遊びは取り組むことが出来るなどの様子が見られることがあります。このケースの場合は視覚的なもの、見て分かりやすいものへの理解は高いことを表しています。こうしたその子ならではの強みを見つけていくこともまた大事なポイントです。また、年間を通して3回同じ巡回支援専門員が巡回を行うため、月日が経ち子どもの様子も変わっていく中での縦断的なアドバイスも行われています。

2020年度から始まり今年度までに29園ほどの保育園

等の巡回を実施してきました。各園2年までは継続利用することが可能であるため、実際に訪問している園は2020年度が8園、2021年度が15園、2022年度が14園、2023年度が14園であり、トータルで51園となります(図1)。これまでに本事業を利用した園からは、「関わり方の理解が得られた」以外にも「保育の自信がついた」といった感想も頂いております。

発達障害等の支援においては早期からの一貫した支援が重要になります。茨城キリスト教大学は「地域に根ざし、地域とともに歩む」ことを掲げています。本事業が日立市の子育て支援の一助になればと思います。

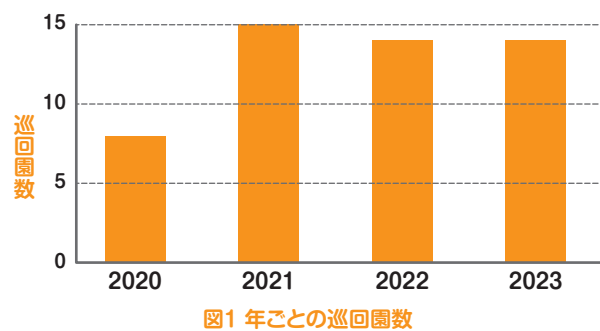


図1 年ごとの巡回園数

